

第13回(平成27年度)助成団体の活動成果について

平成28年5月14日(土)に開催の成果発表会にて、各団体による活動成果の報告が行われました。

	団 体 名	活動企画案内	助成金額
助成 部 育 成 門	特定非営利活動法人ヒューマン支援ネット	子どもの健全育成を図る活動／子どもの認知行動療法	4.5万円
	計 1団体		4.5万円
まち づ く り 活 動 発 展 助 成 部 門	特定非営利活動法人フリースクール木のねっこ	生きるねっこを育むフリースクール活動	31.8万円
	特定非営利活動法人虹橋の会	和紙ちぎり絵や日本語教室などで中国帰国者と地域日本人住民との親睦を築く	37.4万円
	演劇集団ふらっと	演劇集団ふらっと第一回本公演朗読劇『いしぶみ』	29万円
	権現峠の自然をまもる会	権現峠の歴史古道伝承による伴中央地域のまちづくり	23.2万円
	ロングトレイル研究会	広島湾岸トレイル(仮称)の開発・整備	29.2万円
	八幡東ほうれんそうネット	子どもが主役の遊びで学ぶ防災ワークショップ	22.1万円
	アリスガーデンパフォーマンス広場事業実行委員会	街文化の発信/「アリスガーデンパフォーマンス広場 AH!」	43.2万円
	鯉城の会	市外から訪れる障害者の介助／鯉城の会	16.3万円
	ひろしま市民活動ネットワークHEART to HEART	本で人がつながり、つながりから人が育つ「ブック&カフェ」づくり	17万円
	湯来里山会	湯来里山会「畑ガール」プロジェクト	14.4万円
	集いの縁側プロジェクト実行委員会	集いの縁側プロジェクト	38.6万円
	計 11団体		302.2万円
施設整備助成分野			
	神乃倉山愛山会	イベント会場の棚改修工事	186万円
	計 1団体		186万円

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	子どもの健全育成を図る活動／子どもの認知行動療法
②実施期間	2015 年 10 月 17 日 ・ 2015 年 11 月 7 日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) (平成27年4月1日～平成28年3月31日) 主催：特定非営利活動法人ヒューマン支援ネット 共催：キャリア支援プロジェクト彩 後援：広島市、社会福祉法人広島市社会福祉協議会、 社会福祉法人廿日市市社会福祉協議会
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 実施方法：1回2時間で、講義形式の講座を実施 内 容：1回目「子どもの行動の理解と上手なほめ方」 2回目「子どもの困った行動に対応する」 特に困った行動の事例紹介とその対応、良い行動をした時にはすぐ褒める。 困った行動の時も後で話すのではなくすぐに子どもに話す。 子どもには良い行動、困った行動を、具体的に話さないと理解されない。 会 場：広島市中区地域福祉センター 対 象 者：小学生以下の子どもの保護者、関心をお持ちの方
⑤今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 【課題】今回は参加者が20人となり、座学を中心に、「ペアレント・トレーニング入門編」として2回にわたり、主に「ほめ方」と「叱り方」を学習した。座学だけで終わってしまうと、実際に日常生活の中で、今回学んだ内容を実践するには、困った時に身近に相談できる人がいない場合、多少の不安が生じてくるのではないかとと思われる。 【今後の活動】2015年度の学習を活かすために、主に「入門編」に参加した保護者を対象に、2016年度は、「ペアレント・トレーニング実践編」を5月から実施することに決定した。参加者3人と講師の4人を1グループとし、1回2時間で8回コースとする。間を開けると効果が見られないとの講師のアドバイスで、2週間に1回の割合で開催し、今年度、3グループを実施することになっている。 少人数で、参加者と講師がそれぞれ個別の対応ができるように、またグループワークを取り入れながら、学習と実践を繰り返し、有意義なものにしていく講座とした。 また、せっかく学習しても保護者が子育てに対しストレスをためないように、ストレス解消法なども取り入れていく。 【今後の展望】講座終了後も、参加者同士が子育ての悩みや楽しみ、日頃思っていることや感じていることなど、自由に話せる交流会の場の提供ができるようにしていく。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称/テーマ	生きるねっこを育むフリースクール活動
②実施期間	2015年4月1日～2016年3月31日
③実施主体	特定非営利活動法人フリースクール木のねっこ
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) フリースクール事業（平成25年9月～） ・ 不登校またはフリースクールに行きたい子ども対象（概ね6歳～15歳まで） ・ 自身が育ち個性豊かに表現できる環境づくり、社会で自立する人間育成を推進 ・ 月～金曜（週5日） ・ 広島市安佐北区周辺で活動。現活動拠点は久地北・太田川げんき村憩いの館。学びを深める場として、地域住民から空家提供（はんぞうの家）。 ・ 自然、アート、農（田畑）、食育体験、学習支援。地域伝統行事の手伝い、企画、実施。地域活性化を異世代で支援。 ・ 教育事業を行わず、子ども主体の学びを支援。子どもの調査・検索ツールを辞書・図鑑に加え、タブレット端末を購入し活用。 ・ 社会見学・遠足・キャンプを実施し、見聞を広め経験を深める機会を作る ・ 専門講師招致、専門的学びの受講（絵画、木工など） 地域の方の活動拠点をお借りし、地元の方と交流しながらスクール運営を行う。相互依存の関係を目指す。フリースクール活動を柱として、不登校やフリースクールに行きたい子ども、その家族を支えることができるよう活動している。

⑥実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) ・ 学校以外の学びの場の選択肢の一つ、貴重な全日制的フリースクールとしてパイオニア的存在。 ⇒平日フリースクールでの子どもたちの変化と成長 Aくん：読み書き障害のため、学校での勉強についていけず登校拒否となる。 ⇒木のねっこ入学後は情緒安定し、自分の好きな活動を積極的に行ったり、ICT活用の勉強にも取り組んでいる。現在小学校の支援学級に通いながら、フリースクールにも通っている。 - Bさん：スケジュールリングが困難で、急に予定を変更する。 ⇒学校とフリースクールに通う日を事前に自分でスケジュールリング。一日の活動も自分でプログラミングできるようになる。 - Cさん：新しいことに対し不安が強い⇒経験を積むことでいろんな場面に適応できる ・ フリースクールと活動拠点をお借りしている久地北・太田川げんき村が、それぞれ自走できる団体として自立できるよう、お互いを応援、協力。 ⇒げんき村は今春のカフェオープンに向け改装中。フリースクールは隣の棟の調理場をお借りすることとなる。（お互いの自走に近づいている） 木のねっこはげんき村の支援者として全面的に協力。 ・ 地域に根差したフリースクールモデル ⇒地域の古民家を借り修繕。子ども図書館、子どもの学びの環境を充実させ、受け入れ拡大。高等学院の開校に向け、さらにつながりのある地域を拡大。 ・ 広島市で行うフリースクール活動を他の地域へアピール ⇒他のフリースクールや幼稚園などのスタッフ見学受け入れ、交流。合同キャンプ交流など ・ 広島市の就労支援施設へ出張カウンセリング ⇒フリースクール生と障害者の交流会実施。福祉と教育の連携。
-------	---

⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) 【目的達成度・成功した点】 ・学校以外の学びの場の選択肢（平日フリースクール事業）；平均して週3日フリースクール、週2日学校へ通う（学校とフリースクールの併用） →過敏さや鈍さ、集団での不具合を持ち合わせたこどもに、少人数・個別の対応、観察、アセスメントに基づく対応、環境設定をした。その結果、こどもの自立を促進し、こどもは自分のスケジュール行動管理ができるようになった。 ・こども図書館の拡張。Ipadをさらに購入。ICTアプリやノイズキャンセラーの導入 →こども主体の学びの環境が、より広がる。 ・遠足、講師招致；農業体験、絵画教室、スケート、ガラス工芸、木育、スキー →こどもに希望を聞き、計画して半月以内に実施したため、やりたい気持ちが強く意欲的、能動的に学び、すぐ身につけ吸収しやすかった。 ・受け入れ生徒の拡大 →木のねっこ高等学院開校にあたり、安佐北区可部地区周辺の生徒も登校しやすくなった。 ・フリーマーケット出店 →売ることで、こどもの積極性や自信をつけることができた。フリースクール周知活動になった。 ・キャンプの実施 →子どもたちの生きる力を育み、自立へとつながる活動となった。 【考慮したい点】 ・地域とつながる上で、コミュニケーションを十分にとり、信頼を得ていく。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 【課題】 ・地域を応援 →フリースクール活動と並行し、長い目で地域を見守っていく。自由な中でお互いに自立し、その上で依存しあえる関係を目指す。 ・学校以外の学びの選択肢 →学校にもどすための場所ではなく、学びの選択肢として学校とフリースクール両方通いたいこどもの居場所として存在する。その周知のため、地域の団体、他フリースクールや福祉、他機関と関わる。 【追加活動】 ・今後、スタッフやボランティアを増やし、月～金（週5回）のフリースクール活動は継続実施。スクール生募集し増員。 ・木のねっこ高等学院開校。高校生のほか、高等学院プレ生も受け入れ、学びの環境を整え支援する。 ・広報活動を継続、さらに広報場所を増やす →SNS、各機関、団体、つながりある人への広報。ホームページの改良

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	和紙ちぎり絵や日本語教室などで中国帰国者と地域日本人住民との親睦を築く
②実施期間	2015 年 6 月 25 日 ～ 2016 年 3 月 31 日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 特定非営利活動法人 虹橋の会
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 実施方法 1 中高齢者向けの日本語教室：日本人講師から教えてもらう A、先生が作成した教材案により指導してもらう ・日本語の歌「ふるさと」、「やぎさん ゆうびん」など ・面白い会話「ウナギのはなし」、「まんじゅうこわい」など B、教室の参加者たちは、自分の日本に帰ってきてから習ったことや体験したことなどを簡易的に述べ、講師がそれぞれの述べた内容をまとめ、正確な日本語に直して指導してもらう。 ・「日本語の発表内容」添付資料 2 和紙ちぎり絵教室： A、中国帰国者向け、「いちご」、「干支・申」などを作成し、人材を育成する B、日本人向け、ほのぼの基町の参加者たちにミニ色紙の作品を楽しむ 3 中国帰国者支援交流センター及び地域小学校と連携して、和紙ちぎり絵や切り絵（中国剪紙）の体験： ・和紙ちぎり絵「風船」、「干支・申」、「夏の風物」など ・切り絵（中国剪紙）「フクロウ」、「ゴリラ」、「ペンギン」、「双喜」など 活動地域・会場： 活動地域：市内中区西白島・基町を中心として 会場：広島市中央公民館、広島市立基町小学校、ほのぼの基町事務所 対象者：中国帰国者の1世～4世 日本人小学生ら 日本人市民

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) 成果・効果 1 実施した各会場で、日本人講師やほかの活動グループの人々と知り合いになり、それを通じて、日本の社会の日常マナーを知ったことや、仲間が増える機会となっている。 2 日本語教室の会話や発表を通して、勇気をもって、地域の日本人住民にゆっくりと自分の気持ちを伝えるようになった。 3 優れる和紙ちぎり絵の作ることを通じて、広島市には伝統文化を学んで伝承している中国帰国者の団体が存在すると広く発信している。 4 地域の子どもたちに創造する力を教えてきた。見てきれいだと思うだけでなく、手を動かせば自分も創ることができるということを覚えてもらった。また、異文化に対する好奇心も生まれた。 対象者等の反響 1 このような教室や活動は、とても有意義で面白く、行う時間や回数をもっと増やしてほしい。 2 成果を基礎に、さらに発展させる機会や、場がほしい。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) 1 当初の目的に沿って実施したもので、地域親睦や生活しやすい環境づくり及び異文化交流・伝承にある程度役になったと思う。 2 中国帰国者向けの日本語教室では、参加者たちの日本語能力のバラつきに対しては授業内容に工夫をした。 3 参加者は歌が好きなので、歌を利用して、授業の始めに童謡・唱歌等、歌わせ、声を自然に出させた後、会話練習に入るようにすると効果的だった。 4 ちぎり絵の作成には、和紙のちぎり方、貼り方などから説明を聞いたら、簡単に作成できるようになった。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 1 日本語教室では少し高齢の参加者に対して、日常生活の摂取カロリーや栄養学、介護予防の知識、健康維持、身近にある施設の有効利用などの知識を日本語で、勉強させてもらいたい。 2 日本語教室で勉強を通じて、語彙を増やし、中国帰国者たちは日本に帰国してから体験したことをもっと詳しく発表できるように頑張る。 3 小学生や子供たちのちぎり絵や中国剪紙体験の参加人数が増えるように頑張る。 4 体験の場、発表の場を増やしたい。 5 今年は、広島市・重慶市友好提携 30 周年になり、市の主催するイベントへ協力し、当会が主催する「第 3 回日中和紙ちぎり絵展—広島市・重慶市友好提携 30 周年記念」展示会を開催するよう頑張る。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称/テーマ	朗読劇 いしぶみ 広島二中一年生 八月の足あと
②実施期間	2015 年 4 月 1 日 ~ 2016 年 3 月 31 日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 主催 演劇集団ふらっと 朗読劇少年口伝隊一九四五実行委員会 後援 広島市 広島市教育委員会 広島市文化財団 中国新聞社 広島テレビ
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 演劇集団ふらっと 第一回本公演 朗読劇「いしぶみ」広島二中一年生 八月の足あと 会場 広島市東区民文化センタースタジオ2 日時 8月1日(土)①15:00 ②19:00 8月2日(日)③11:30 ④14:30 4回公演。 前売り 2000円 当日 2500円(税込) 全席自由。各回定員 80席。 対象者 子ども ~ 大人まで アンケート集計から、8才から80才までの幅広い年代の方々に 見ていただいたことがわかりました。 原爆により広島二中の生徒が全滅した様子を取り入れる テレビ番組を基にオリジナル脚本を作り、舞台を作りました。 あかげ本菜で3歳席になり、原爆のおそろしさ、平和の大切さを 少しでも伝えることができたのではないかと思います。 助成していただいたおかげで、プロの照明に入っただけまし たし、付属設備もしっかり使うことができました。

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) アンケートより。 ・原爆はいけな^いとわかった。 ・もっとたくさんの人に見てもらいたい作品だ^い。 ・子どもを探る親の姿に涙が出た。 ・海ゆかばの歌がなつかしかった。 ・平和について考えたいと思った。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) (目的)公演の成功、各回を満席にしお客様によかったと言っていた^だける朗読劇を作りあげること。これは十分に達成しました。 朗読劇 いしづみに真剣にむきあうことで、客演された役者さんたちも本気になる^てチケット売り、宣伝をしていました。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 今後の活動は、 6月18日(土) 東区民文化センター大広間にて、 朗読劇「少年口伝隊一九四五」を上演します。 昨年の冬には クリスマスキャロルの朗読会を行いクリスマス^を祝いました。原爆だけでなく^い活動^を続けていきますが、 一方原爆のおそろしさ、無情さを後世に伝えることもしていきたい^なと思っています。井上ユサの原爆をテーマにした広島県^の部作の最後の作品「少年口伝隊一九四五」も「いしづみ」と共に大切に朗読していきます。 いつか「いしづみ」を東京で上演できたらいいね、と劇団内で夢を語っています。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	権現峠の歴史古道伝承による伴中央地域のまちづくり
②実施期間	平成27年4月1日 ～ 平成28年3月31日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 伴中央町内会、下向町内会 沼田公民館 里山環境みどりの会
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) ○ 会員により権現峠の歴史古道および権現神社周辺の草刈清掃（5月10日、8月23日、11月27日、11月29日）の実施 ○ 会員により歴史古道入り口の大鳥居前に鯉のぼりを設置し、賑わいを創出（4月～5月） ○ 会員と「フリースクール木の根っこ」グループと権現峠から祇園町山本の春日野まで古道散策を行った。（5月20日） ○ のろしりレーに協力（7月25日） ○ 沼田公民館と共催で歴史研修会の開催（8月9日）し、町内外の方で歴史や里山登山に関心のある43名の参加者があった。研修会終了の際にアンケートと会員募集の案内も行った。 ○ 新しい名所創りのための「しめ縄」づくりを町内会の先生方（奥様）と会員で、町内で調達した餅米のワラを使用して作成した。（10月23日） ○ 里山環境みどりの会、西区やまなみの会、武田山グループなどと広島南アルプス一部縦走体験のため、伴中央に集合し権現峠から火山、武田山、カガラ山と縦走し、大町で解散した（10月25日）48名の参加者があった。 ○ 会員により清掃を兼ねて新名所「屏風岩（いたみやさん）」にしめ縄を架け、案内板を設置し、周辺整備をおこなった。（11月29日）このことは地域雑誌「まるごと安佐南&安佐北1月号」にも掲載されました。 ○ 日本山岳会の主催の広島湾岸トレイル体験（大町～武田山～火山～権現峠～丸山～畑峠～大茶白山～己斐峠）に参加した。（1月16日）38名参加

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) 7月に会員の一人が亡くなったが息子が後を継いでくれたりして、年3～4回の清掃活動の継続が会員同士のきずなをつくってくれている。また、美しく歩き易い山道として評判になり、伴小学校5年生170名が遠足に利用したり、また「あるこう会」の人々100名以上がイベントを行った影響で、数人のグループが度々訪れるなど、気軽に自然にふれることができる場所として定着してきている。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) H mの補助金を利用して今年で3年目、今年度はこれまでの集大成の年と位置づけハード面の整備をすべて完成させたいと考えていました。由来看板、案内板、休憩ベンチ、大鳥居など、こんなのがあったらいいなと思うものはすべてでき上がり大成功であったと思います。特に今年度は「イメージキャラクター：夫婦天狗」まで完成し、最初に目指した以上のものができたと満足しています。ただ、地域の大学生さんを巻き込んだの活動にしたいとの思いだけが実現できなかったのが残念です。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 今後とも年3回～4回の清掃活動を継続して行い歴史古道と権現神社は守っていきたいと思います。ただ山陽自動車道の上の橋から中間地点の大鳥居までの道路が、産廃業者の大型ダンプの度重なる通過により舗装が剥がれデコボコが酷く、美観的にも悪く、登山者にご迷惑をかけていることが大きな課題として残っています。このことは市や県にも要望しているところです。 今後は、歴史古道沿いに桜の苗を毎年何本か植え続けていき、将来は「さくら祭り」を実施できるようにして地域の賑わいづくりに貢献したいと思います。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	広島湾岸トレイル（仮称）の開発・整備
②実施期間	2015年4月1日～2016年3月31日
③実施主体	（主催、共催、後援、連携した機関・団体など） （主催）ロングトレイル研究会、（協力）広島湾岸トレイル協議会、日本ロングトレイル協会、日本山岳会広島支部、（後援）観光庁、中国運輸局、広島県、広島市、呉市、廿日市市、府中町、海田町、北広島町、坂町、熊野町他多数
④内 容	（実施方法、活動地域や会場、対象者など） ・ 2015年4月：第一次踏査、整備（烏帽子岩～鈴ヶ峰間）129.5km）47回314人が参加して終了した。 ・ 2015年5月：第二次踏査、整備（宮島、瀬戸、駅南コース）を開始した。2016年3月26日完了にし250km overのトレイル全通した。30回279人が参加した。 ・ 2015年6月：広島湾岸トレイル協議会15山団体が参集し初会合を開催。以後8、10、12、3月と5回の会合を重ね、正式発足が確定し4月1日17山団体で正式発足する。 ・ 2015年7月：自然を生かしたまちづくり「山歩きを楽しむ…広島湾岸トレイル構想について」市役所講堂での講演に24団体82人参加した。 ・ 2015年7月：狼煙リレー（安芸区）」に11名が参加して白木山で狼煙を上げた。 ・ 2015年8月：安全登山推進講座を船越公民館で受講生30人講師8人で開催した。 ・ 2015年9月トレイル体験会（烏帽子岩～鈴ヶ峰間：14回、宮島コースの鈴～宮島弥山間：4回、瀬戸コースの烏帽子岩～クマン岳：8回/総計26回の体験会開始。2016年3月26日現在18回実施415人参加。残る8回：5月末頃迄に完了予定。 ・ 2015年10月広島湾岸トレイルが商標登録された（ロングトレイル研究会有志が出資した）。 ・ 可部連山トレイルラン（安佐北区）にスタッフとして8名が参加した。 ・ 2015年11月28日ロングトレイルフォーラム in 広島（安芸区民文化センター）で296人が参加して開催。同日の交流会（サンピアアキ）には46人が参加。11月29日のトレイル体験会は天応～烏帽子岩～小屋浦、小屋浦～絵下山～矢野天神、矢野天神～金ヶ灯籠山～海田運動公園、海田運動公園～鉾取山～瀬野、己斐峠～鈴ヶ峰～八幡東、小用～古鷹山～切串の6会場に222人が参加して開催した。 ・ 2016年3月12、13日第4回広島みなとフェスタ（南区）応援企画は、12日：広島湾岸トレイル・駅南コースの広島駅～平和記念公園～比治山～フェスタ会場、13日：フェスタ会場～似島に69人が参加して実施した。 ・ 2016年3月18日湯崎日英彦の地域の宝チャレンジ・トーク（湯来西公民館）広島市から一般の部（2団体）で出場し「広島湾岸トレイル構想」をプレゼンした。参加者300人位。

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) ・広島湾岸トレイル協議会初会合以降に2団体が加入し、年度内に2団体が加入する。 ・コース沿線4市5町の複数自治体において、2016年度の広島湾岸トレイル関連の予算案が計上された。又、県議会、呉市議会一般質問があった。 ・一般市民から、トレイル体験会の開催、安全登山推進の講座開講の声と遠隔地からトレイルを歩きたいとの声が増大した。 ・行政、山団体、企業他の広島湾岸トレイルにたいする協力度は総じて高まった。 ・3月19日の知事が聞く「湯崎英彦の地域の宝チャレンジ・トーク」に出場した。 ・RCCラジオ、NHKの映像、新聞等に数多く取り上げられ、認知度、知名度が飛躍的に向上した。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) ・踏査、整備計画：悪天候等で度々順延を余儀なくされたが年度内に完了出来た。 ・全26回トレイル体験会：悪天候等で度々順延を余儀なくされたが、予想を上回る参加者があり、雨天順延になったが46人の参加申込の回もあった。年度内完了を目指したが1、2ヶ月程度ずれ込み完了予定となった。トレイルの認知度upに貢献できた。 ・2016年11月28、29日のフォーラム、体験会：何もかも初めてのイベント開催は、世間がロングトレイルの言葉さえ知らないなかで、450人の定員を上回る参加者があった。4市5町、県、国他多くの協力を得られ、目指す「官民連携all広島」に一步近ずいた。 ・初めての助成金に取り扱い不慣れ、理解力不足で反省点多く良い勉強になった。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) ・多くのイベントを開催し認知度upに努めたが、努めれば務めるほど会員の出費は膨大になり、この支援補助策が今後の最大の課題。 ・自治体への訪問、協議会つくりの山団体訪問、企業訪問しての「官民連携all広島」つくりも、理想を求めれば求める程、すればするほど会員の出費は膨大になり、この支援補助策が前述のイベント開催と同様に今後の最大の課題。 ・250km overのトレイルに統一した道標を立てるには、コース上の4市5町、即ち広島市、呉市、廿日市市、府中町、海田町、北広島町、坂町、熊野町と県、国の連携した施策が必要不可欠。この活動に更なる努力を要する。 ・データー&ガイドブック：一般の人がこの本一冊でトレイルを歩けるとした前例のない、類を見ない一冊となるが、多額な資金を要する。 ・維持管理、整備計画：250kmのコースを維持管理の為に広島湾岸トレイル協議会の更なる会員(団体、個人)の参加を広く深く厚く求めなければならない。 ・広報計画：トレイルを活用することが地域活性化、経済活性化に繋がり、活性化する事で多くの人がトレイルを歩けば、トレイルの維持管理は容易となる。その為にはトレイルの存在を周知が必要不可欠。ネット(ウェブ)を使い、体験会をより多く開催する事で「口コミ」の伝搬を図る等を重点的に展開しなければならない。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	子どもが主役の遊びで学ぶ防災ワークショップ
②実施期間	27年 12月 6日 (平成27年4月1日～平成28年3月31日)
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 八幡東ほうれんそうネット、八幡東子ども防災フェア実行委員会、 八幡東小PTA、
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 〔概要〕 ○子どもたちが、ゲームで遊びながら楽しく防災に必要な「技」や「知恵」を身につけることができる「家族連れでにぎわう新しいカタチの防災訓練」である。 ○参加の動機づけに、不要になったおもちゃの交換会を一緒に行い、ゲーム参加やお手伝いでもらったポイントを貯めて、他の子が持ってきたおもちゃを貰える工夫を取り入れた。 〔実施したゲーム等〕 ○小学校の体育館と校庭を会場として、次のような防災体験ゲームを行った。 体育館：ジャッキアップゲーム、紙食器づくり、防災カードゲーム、 応急手当ワークショップ、「毛布で担架」タイムトライアル、 水害紙芝居、おもちゃの交換会 校 庭：水消火器的あてゲーム、対決バケツリレー、消防・救急車試乗、 〔会 場〕 八幡東小学校（広島市佐伯区八幡東） 〔参加者〕 地域住民 (子ども中心の若いファミリーとおじいちゃん・おばあちゃんの三世代)

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) ・消火器の取扱い、毛布を用いた担架、自動車のジャッキを用いた救出方法などの災害時に役立つ実践的なヒントを学び、日頃から災害に備える「知識」や「技」を習得することができた。 ・子どもは参加によって防災に関心を持ち、親やおじいちゃん・おばあちゃん世代は子どもに付き添って参加することによって防災を意識するようになった。 ・この訓練を積み重ねることで、地域としての防災意識が醸成されてきた。 ・企画運営に参加するジュニアボランティアは、地域活動における自己実現と緊急時の自立心、リーダーシップなどを育む事が出来た。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) (現在までの活動で成功した点、実施上特に工夫した点など) ・ジュニアボランティアの参加者が昨年の4倍の延160名と大幅に増加した。 ・準備段階からジュニアボランティアの会議を開催し、当日も中学生がリーダーとなって小学生ボランティアに分担を割り振り、自分たちでオークションなどの一部ブースの運営を行った。年々、子どもたちの自身の手による催しに発展しつつある。 ・参加者も600名と去年より増加し、地域の認知度も高まってきている。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 〔課題〕 ・新しいボランティアの獲得。 ・ゲーム内容のマンネリ化。 〔展望〕 ・今年活躍した中3のジュニアボランティアが高校生になっても参加するよう呼びかけるとともに、小学校低学年にも参加を呼びかけるなど参加者のすそ野と年齢層の拡大を図る。また、小学校・中学校ともこれまで以上に連携して、ボランティアの増加を図りたい。 ・去年は、ゲームの内容もNPOからレンタルしたものをそのまま使用したが、今年は、一部ゲームについて、ボランティアの自作により内容を地域に沿ったものに少し変更した。今後も、ゲームの内容を地域の課題にあったものへと進化しより内容の濃いものとしていきたい。年々、新しいゲームを取り入れ、新陳代謝を図る。 ・今後、継続して開催するために、主催者による軽食などの出店収益や企業協賛などを募り、運営費を賄っていきたい。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	街文化の発信/「アリスガーデンパフォーマンス広場 AH!」
②実施期間	平成 27 年 4 月 1 日 ～ 平成 28 年 3 月 31 日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 主催：アリスガーデンパフォーマンス広場事業実行委員会 協力：広島市中央部商店街振興組合連合会、(株) ステージユニオン広島、NPO 法人クリーンディーシークラブ、ライブ楽座、cocoro-to プロダクション、NPO 法人アートプラットホーム G、RIN STUDIO、NPO 法人セトラひろしま 事務局：NPO 法人セトラひろしま内
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 【実施方法】 イベント「アリスガーデンパフォーマンス広場 AH!」(以下 AH! と呼ぶ) の実施及び実施に関わる企画・運営、広報活動 【活動地域・会場】 広島市中区アリスガーデン、広島電鉄千田車庫 【対象者】 不特定多数一般市民、観光客 【AH! の実施内容】 (別紙 H27 年度活動実績表) ●開催日：平成 27 年 4 月 ～ 平成 28 年 3 月 *全 12 回開催実施 (4/18、5/3、5/4、5/5、6/7@広島電鉄千田車庫、7/18、8/22、9/18、10/17、11/20、12/5、2016 年 3/12) ●開催場所：中区アリスガーデン (西新天地公共広場)、広島電鉄千田車庫 ●総来場者数：70,350 人 ●総出演者数：906 人 ●イベント内容：ライブステージ、アーティストによるブース、飲食ブース等の展開 《ステージ展開 (音楽・ダンス・パフォーマンス)》 [レギュラーコーナー] ジャンルフリーの表現チャレンジ企画「ALICE First Chance」、 「ライブアートパフォーマンス」(ライブペインティング、大書パフォーマンス等)、ローカルアイドルなどの「アイドルルーム」、「広島クラブシーン」、「ダンスバトル」、「Beat Box バトル」[プレミアム・ライブ] (実力派アーティストによるライブ) [その他の特別企画] 《ブース展開》アーティストのプロモーションブース、街文化情報ブース (街文化情報サイト・Hiroshima Omatsuri Otoko=H00)、AH! 飲食ブース、子育て支援ブース等、 【広報活動】 ・AH! ガイドブックの作成と配布 (上半期版・下半期版の 2 版) ・ブログ「AH! 情報局」の運用 ・SNS 発信 (Face Book) *事前告知、記録画像のアップ等 ・ひろしま街文化情報サイト・Hiroshima Omatsuri Otoko=H00) との連携 (AH! の事前告知、また事後、イベント記録の動画配信を行った。) ・ラジオ番組「AH! FUN RADIO」との連携

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) 現在の広島市の街文化を総覧できる多彩な内容となり。来場者数の増え、街文化発信の牽引役として広島市中心部の魅力づくりと観光拠点の創出の。今後も事業を継続していく予定である。イベントの認知度を高め、広島市中心街の一つお観光コンテンツとして、交流人口の増加に貢献できるようなイベントとしたい。 今後の課題としては次のことが挙げられる。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) 後期プログラムを説明、コンセプトとして、イベントごとテーマを決め企画。集客が増えた。ゲストにアメリカから「歌唱王」Nobを迎えた。 ●広報部門では、ブログやSNSの高頻度の活用、また RCC ラジオ「AH! FUN RADIO」での発信、また 2015 年 4 月より、イベント情報 SNS サイト「HOO (Hiroshima Omatsuri Otoko)」による発信により AH! の認知度と発信力がアップし、集客アップ、イベントサポーターのコミュニティーの形成につながった。 ●6 月の広島電鉄千田車庫で行われた「路面電車祭り」での出張開催の AH! の知名度を上げるのに貢献した
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 《資金集め》 イベント請負やプロダクション業務に対応できる専門スタッフの確保につとめ、新規事業にチャレンジする。 イベントへのブース出店・関連ウェブサイトやパンフレット等への広告募集など、企業協賛の獲得に注力する。 ・イベントの実績をふまえた新規事業の開拓 広場周辺店舗と連携し、クーポン付きチラシMAPの配布し店舗を宣伝する企画「AH! をしゃぶり尽くせ!」を始める。 《スタッフの確保》 マネージング担当スタッフ、写真記録・動画録画やソーシャルメディア対応の専門スタッフ、現場スタッフの常態的な確保。そのためにもしっかりと資金基盤を確立することが必要である。 《コラボイベントの誘致促進》資金基盤を確立するためにも必要である。 《テント等ハードの老朽化への対応》

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称/テーマ	鯉城の会/市外から訪れる障害者のガイド及び介助活動
②実施期間	平成 27 年 4 月 1 日 ～ 平成 28 年 3 月 31 日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 広島市社会福祉協議会 ボランティア情報センターの情報をもとに活動
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) ・広島市社協ボランティア情報センターの情報をもとに、2 人 1 組で障害者を介助する。 ・12 名の会員が観光アシスタントひろしまの講習を受講し、観光案内実施します。 ・活動地域は広島市を中心とした場所及び催事の会場。 ・活動内容は市内に到着場所または指定場所から目的地(観光コースを含む)、食事の案内、宿泊場所、及び出発地点への介助・案内 ・対象者は主に市外から訪れる身体障害者と視覚障害者。 ・活動対象は個人・グループ・団体等 ・定例会は第 3 火曜日、場所は市社協福祉センターで、ボランティア情報センターのボランティアコーディネーターも出席。活動実績報告＝実例をもとに質疑応答・対策を検討。また、計画の検討実施。 ・勉強会＝障害者と同じ目線で体験・サポートするために。障害者の声を聞く会(障害別に)⇒会員の大半は、定年退職後を含め高齢者で初めて参加された方達の集団であるため、繰り返しの訓練・学習が必要である(視覚&車いす講座と体験会を 4 回実施)。 ・障害者対象のボランティアグループとコラボレーションしての体験会実施。「きっかけづくりの会」主催の車いす体験会を全面的に支援し、「車いす」での移動がいかに困難であるかを一般の方達に体験してもらう催し、8 月に 1 週間に亘りひとまちプラザで開催。広電の皆さんが大勢で参加、車いすユーザーへの取り組みを会社ぐるみで支援されている姿勢に私たちも勇気と希望を戴きました。 ・3 月には「市外から訪れる障害者への介助ボランティア講座」を市社協ボランティア情報センター・白い三輪車の会・広島肢体障害者の会・電動車いすユーザー等の支援を受けて実施、一般 12 名を含め 30 名で開催。障害者の方達の明るい笑顔と楽しい会話に参加者は感動を受けられた様子、今後は気軽に声をかけたいとの感想も戴きました。 ・広島市老人大学及び大学院の学生に 2 回に分けてのボランティア及び活動体験講座を開催しました。(受講生は大学約 260 名、大学院約 180 名熱心に聞いて戴きました。 ・支援活動は年間 20 回、延人員 99 名が参加しました。

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) ・愛知からの車いすユーザーは平和公園案内・市内電車での介助に対し、今までは家族に添乗を依頼していたが、広島市は単独旅行が可能であるとの感想を得ました。 ・一般の人たちを対象の講習会では、障害者に接することの不安感が強く、声かけをためらっていたが、これからは気楽に声かけができる。 ・老人大学・大学院での感想は、白杖 SOS 運動及び視覚障害者への声かけの仕方等の質問と将来老々介護での車いすの扱い方等の質問を受け丁寧に対応し理解を得ました。 ・フラワーフェスティバル・8/6 平和祈念式典、マーガレットコンサートでの障害者介助は毎年のことではありますが、多くの感謝と喜びの声が聞かれます。 ・網膜色素変性症広島支部の方達とは相互信頼関係ができ、催事には必ず要請がある。
⑥ 目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) ・市外からの個人の利用者回数が少ない(市社協のボランティアコーディネーターの長期病欠も一因か?)。鯉城の会としての宣伝不足が最大の要因である。 ・「きっかけづくりの会」とのコラボ「車いす体験会」は、一般参加の方達も会員にとっても技術の向上になり有意義であった。 ・ユーザーの安心安全のための勉強会で毎回講師を変えて実施。障害者の状況は千差万別であるという理解に繋がり、介助対応に役立ちました。 ・「障害者のための介助講習会」開催は一般の方達に指導することで、会員のレベルアップと障害者への接し方を周知することで安全・安心なまちづくりに役立っています。
⑦ 今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) ・鯉城の会の上記宣伝不足を解消するため、また活動内容を周知してもらうため活動内容についてのリーフレットを作成したい。そして多くの人達(特に障害者及びその関係者の皆さん)に配布したい。 ・鯉城の会の活動は、全国的にみても珍しいボランティア活動であると評価されています。この活動の輪を広げることが障害者の方達の喜びの一つに成長することを願っています。 ・鯉城の会の利用者を増加することが障害者の方達の外出の機会を増加させることであり、見聞を広め、幸せな社会生活を送る一助になれば、鯉城の会としての存在価値を高めることができます。 ・市社協のホームページに会の活動内容について掲載して戴く様に交渉しています。 ・各種ボランティア団体とコラボしながら活動の輪を広めたい。そのために市社協の建屋移転のための催事「ありがとう千田町」の企画に協賛し、ボランティア情報センターの利用者連絡会の幹事を務め、催事の実行委員となり、活動を支援しています。 ・「市外から訪れる障害者への介助ボランティア講習会」は、 鯉城の会の存続と後継者育成のために、 一般の方達に障害者理解の場づくりとして、 福祉のまちづくりの見守り活動の老々介護に役立てるために、 継続して行きたい。そのための資金作りは会員に諮って推進します。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称/テーマ	本で人がつながり、つながりから人が育つ「ブック&カフェ」づくり
②実施期間	2015年6月1日～2016年3月31日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) ひろしま市民活動ネットワーク HEART to HEART、草の根応援団
④内 容	A) ブックカフェ：施設としくみの整備 ①図書が集まり具合 当会会員や一般市民の方、延べ25名（一人で複数回持ち込まれた方あり）の方々から、市民活動に直接的あるいは間接的に関連ある書籍やちょっと休憩用に心とらぐ書籍や雑誌、計530冊が持ち込まれました。現在はそのうち480冊が書棚に収まっています。 ②書籍を貸出用に体裁を整える作業 貸出の管理と既読者同士のコミュニケーション向上を目的に、図書カードやメッセージカードを一冊ずつ貼り付けていきました。ボランティア4名が活躍してくれました。 ③書籍貸出の効率化を目指すデータ管理システム構築 ファイルメーカーを使ったデータ管理システムにより、書籍データ/カフェメンバーズデータ/貸出～請求～返却処理/貸出料集計ができるようになりました。貸出時にメンバー番号と書籍番号を入力すれば貸出書籍の一覧と貸出料が出力できるので、それを控えとして借りる方にお渡しすることができ、この流れは簡単なマニュアルを使えば、店番(?)の誰もが使うことができるものになりました。 B) ブックカフェのオープン ①一般来場者数及び特筆すべき事項 10月24日よりハート・ブック・カフェとしてオープンしました。それから約3週間後ぐらいに地元紙に掲載されたことがきっかけで、とりあえず見学のみの方(12名)やついでに珈琲を飲む方(15名)もおられました。手に取った書籍をじっくり読む方は少なく、貸出までつながったのも2名のみというのは想定外でした。また、新聞を見て、ご自身の書籍を販売してほしいというお問い合わせが5件あったのには驚きました(そのうち実際に来られたのは1名/1週間ぐらい通われました)。 ②ブック・カフェ・トークの開催 書籍に関連ある方のお話を伺いながら珈琲を飲み、参加者同士でも語り合うという企画を10月と2月の2回開催し、参加者は計18名。「スピーカーのお話が面白かった」という声や「(マーケティングという)難しいと思っていたことが理解できた」という声をいただき、このブックカフェは自由に書籍を閲覧できるサービスだけでなく、当会がプロデュースしたミニイベントも必要であることを強く認識しました。

⑤実施効果	○やって良かった点 ・初めて来られた方は大抵「NPO本ってこんなにあるんですか!?!」と驚いておられ、見目で強いインパクトを与えることができたのは良かったです。 ・トークプログラムに参加された設立間もない団体（若年層）は、各団体の活動ぶりに大変刺激を受けたようで、当会の他のプログラムにも参加されるようになり、どんどんつながりづくりを進めています。その姿勢は頼もしくみえます。 ・書籍の整備ボランティアとして関わってくれた未就労の女性が、他のボランティアと一緒に作業をしていく中で表情がどんどん豊かになり、結果として行政事務の職員として就職できたことは大きかったです。 ●うまくいかなかった点 今年度は書籍の貸出体制を整えることに重点を置いたため、来場者数が伸び悩みました。（これまでの来場者数に比べれば同時期の約2倍にはなりました）。
⑥ 目的の達成状況	①具体的な数値目標に対する達成度 ・集める書籍1,000冊に対して530冊 →長期的な目標ですので、継続目標です。 ・ブックカフェの登録メンバー（貸出時に必要な登録）20名に対して8名でした。 ・ブックカフェの書籍を参考書にしたミニ講座は実施できませんでした。 ②工夫した点 とにかく来場者を増やすために、ブックカフェの様子を動画にしてブログに貼り付けたり、SNS（Facebook/Twitter）を活用して情報の拡散を図ったところ、情報を共有し拡散してくださる方が結構おられました。「宣伝」という面では、チラシをあちこちに置くよりも広まり方は早いように感じました。
⑦ 今後の課題・展望	次年度は自主事業となりますが、課題も見えていますので、次の一手を打ちたいと考えています。 ①来場者を増やすために ・SNSでの宣伝を定期的に流すと同時に、これまで作成せずにきたホームページやブックカフェに特化した4つ切りサイズの手渡し用フライヤーを作成し、流れていってしまう情報と滞留する情報を使い分けながら、どこかで人の目に留まるような宣伝をしていきます。 ・ロゴが可愛い♪との声にも注目し、ロゴを入れたグッズを作成します。他団体から布製の手提げ袋を約90枚いただきましたので、グッズ第一弾はロゴ入りエコバッグが登場します！ ②書籍活用（閲覧と貸出）の度合いを高めるために ・「カフェトークは楽しい」と概ね好評なので、年に4回の開催を目指します。 ・今年度実施できなかったミニ講座を実施します。会議の進め方や宣伝ツールの作り方などをテーマに選び、活動に役立つ実践的な書籍を参考にしたワーク付きのミニ講座を予定しています。書籍を読まなくても学べるけれど、読めばより精度の高いスキルが期待できるということをお伝えするプログラムです。また、集まった絵本を用いて「読み語り」の方法を学んだうえで「読み語り隊」の隊員になろう！という講座が既に決まっています（大学生～パパママ対象）。 ③一人よりも二人、二人よりも三人の人財を育成するために 今年度は若者の未就労者が一人就職しましたが、次年度もさらに複数人の若者の未就労者にカフェで活動していただく予定です。いろいろな人と出会い対話することが力となり、社会との接点を面に広げていけるような人財を生み出したいと思っています。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	湯来里山会「畑ガール」プロジェクト
②実施期間	2015年6月1日 ～ 2016年3月31日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 主催湯来里山会、共催者特定非営利活動法人ひろしま NPO センター、湯来のまち再生プロジェクト協議会
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 実施方法：畑ガールは「農を楽しむ女性」を意味している。就農まではいかないが、山間地での野菜・米栽培をやってみたい人たちのことをイメージしている。募集はチラシのみで、申込みは電話受付としている。申し込みされた畑ガールは1年を通して、栽培してみたい作物を耕すところから収穫まで自立して取り組む。必要なときは経験のある地元高齢者に指導をしてもらいながら進める。また、畑ガールの活動を知ってもらう企画として、「いちから米づくり」というイベントを開催している。 活動地域：広島市佐伯区湯来町の耕作放棄地。湯来町は東・西・南エリアに分かれている。活動場所は、そのうち、有名な「湯ノ山温泉」と「湯来温泉」をもつ東・西エリアで畑3か所、田んぼ1か所ある。 対象：米や野菜を湯来町で栽培したい女性とその家族。年齢は問わないが、自主的に畑の管理ができる人。 道具類：活動をするために必要な農具や機械は貸し出しをしている。会費制のため、必要な資材や肥料などは提供しているが、ユニークで高価な道具に関しては自費で購入してもらっている。 活動日：水曜日と日曜日に設定しており、人手のいる作業はこの日に行う。それ以外は自由な時間で作業を進める。 指導者：湯来町で長く農業を進めてきた高齢者で、活動地の環境を熟知している周辺に住んでいる人に指導を依頼している。 畑男子：畑ガール活動で力仕事を要するときに召集される地域の男性たち。耕耘機や草刈り機を使った作業の多くは彼らが担う。メンバーのほとんどが移住者で、中には湯来里山会を通じて湯来町へ移住してきた人もいる。個人的に農業を進めている人がほとんどで、知識や経験がある。 イベント：「いちから米づくり」は、広島市湯来交流体験センターとの共催事業。毎年5月と9月に米の田植えと収穫体験をしている。

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) 畑ガールプロジェクトに取り組む以前の活動では、主に観光活性化を通して人々の賑わい創出に尽力していた。その手段としては祭りやワークショップなどの「イベント」が多く、残念ながらにぎわいも一時的なものに留まっていた。 畑ガールプロジェクトの取り組みは、作物の面倒を見るという目的があるため、頻繁に外部の人(畑ガール)が湯来町へ足を運ぶようになった。また、湯来町で畑ができるというイメージが「移住もできる」というものと連動したようで、畑ガールの獲得と同時に30~40代の子育て世代の移住も促すことができた。そのことで、家を貸したいという地元の声も拾うことができるようになってきている。結果として、田舎へ住みたい、何かをしたいというニーズと、田舎に賑わいを取り戻したいというニーズに応えられるような「持続的な賑わいづくり」の取り組みとしての効果を得ることができている。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) 成功した点：持続的に活動を進めてくれる畑ガールを集めるため、なるべくイベントに頼らず作物を栽培することに集中して取り組んできた。そのおかげで、今年度は将来的に畑ガールをひっぱってくれるメンバーを獲得することにつながった。来年度からは当初目的とした「販売」「加工」なども視野にいった活動が進められると期待している。また、地元の高齢者に指導者にすることで、地域にあった方法で栽培を学ぶことができた。また、指導者と畑ガールとの間に家族のような交流が生まれ、その人に会いたいから湯来町で栽培をするというような温かい関係が築けた。高齢者も楽しそうに参加してくれている。 失敗した点：鳥獣被害から作物を守ることができず、収量が少ないことが懸念される。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 畑ガールの認知度：今年度はチラシの配布やメディアの掲載(JA 広島こいぶみ・日本農業新聞)を通じて活動を知ってもらう機会があった。そのため、「やってみたい」という女性の声もだんだん増えてきている。しかし、その声をうまく拾い上げられていないのが現状である。よって、この声を拾い上げるためにもイベントを開催する必要があると考えている。 畑ガールの新たな取り組み：今年度の活動で効果のあった地元の高齢者を指導者として栽培を進めるという取り組みを講座化する。畑ガールになってみたい女性たちの期待に応えていきたい。また、講座の中で収穫した作物をつかった加工品づくりといったワークショップも開催し、栽培から口へ入るまでの道のりを学んでいき、実践に向けての基礎作りをしていきたい。 鳥獣被害：すべての活動地に柵や網の設置が行き届かず、不十分なところは必ず猿の被害にあってしまう。湯来町では、鳥獣被害が原因で農業をやめてしまう高齢者が多いのが現状で、畑ガールプロジェクトもそうならないための対策が必要。来年度からは、畑ガールの育成だけでなく、確実に作物を収穫する方法にも取り組んでいく必要がある。 庭園のような農地づくり：現在、湯来交流体験センターに付属されている農地でじゃがいもの栽培をしている。その農地作りは「美」を追求しており、湯来町への観光客が農地をみて「またやってみたい」や、「私もやりたいな」と思ってもらえるような仕掛けをしている。見せる農業にも取り組んでいきたい。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称/テーマ	集いの縁側プロジェクト
②実施期間	平成27年6月17日～平成28年3月31日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 主催 集いの縁側プロジェクト実行委員会 協力 庚午北町内会、庚午集会所運営委員会、 空の下あもてなし工房 (市民団体)
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 平成27年6月 庚午北町内会と打ち合わせ。 縁側の整備の資材や整備後の管理運営等について協議。 11月 監視カメラの設置も終了し、木製デッキで整備する方向で決定。整備計画図を作成。 12月 大工士と町内会役員を交えて、計画図を検討。整備手順として工期を1期、2期に分けることを決定。 平成28年1月16日 ⑦ 第1期工事 基礎ブロックの設置。 (23日) 資材搬入 21日 資材パン塗り 2月21日 ⑦ 床組及びデッキ貼付 ⑧ オープンカステラス 27日 第2期工事資材搬入及び角取り作業。 3月5日 ⑦ 資材パン塗り及び基礎ブロックの設置 13日 ⑦ 床組 20日 ⑦ デッキ貼付 ⑧ 27日 床下隠しの化粧板の設置、完成。 大工士による ※上記 ⑦ は 縁側空間整備ワークシートを示す。 ⑧ は 縁側空間周辺でのカテの開催を示す。

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) 大工の指導により、7m×3mの緑創整備を地元住民の手で完成させることができて、と実感していた。 見知らぬ人同士が、協同作業を通じて顔見知りになっていくことが実感できた。 時間をかけて整備したことで、子どもたちが地元のことが目に見えることになり、誰かが整備したものを記憶に残り、愛着がわくことから、大切に使用していくことが期待できる。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) 作業計画が遅れたため、十分なイベントを行うことができなかったが、公園内の桜のおかげで、完成後の花見シーズンに地元での認知度を上げることはできた。 今後の利用について、町内会の青年部で利用のアイデアがどんどん出始めている。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 4月3日の町内会主催の土曜祭りでは、緑創を活用したおしるしの配布など、集会所と公園をつなぐ良い使い方が、エッセンスで定まっている。 緑創スペースの取り合いや指定グラウンドの占拠が行われるような状況になると利用手帳を必要と考える必要が出てくる。 利用実態を調査し、工夫できることはおぼろげにわかった。 集会所の活用と共に緑創の活用の有用性を検証し、他の地域での集会所+緑創の組み合わせについて広めていきたい。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公開しますので、
個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①名称／テーマ	イベント会場の修繕工事
②実施期間	平成27年 4月 1日 ～ 平成28年 3月 31日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 主催 神乃倉山公園愛山会 共催 井原地区自治連合会 後援 社会福祉協議会・女性会等
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 今回は、イベント会場の「ふじ棚修繕工事」を行います。 1、 ふじ棚は約半世紀の歳月で「腐食」「破損」等が進み危険であるために、鉄筋支柱を全部撤去し新しい甲管に変える事にしました {注} 申請時、柱を「間伐材」でされたらとアドバイスを受け、業者と検討をしましたが、下記の問題があり、申請通り甲管で実施をしました。 1、間伐材の柱を使用すると甲管との接点部品等もあり約3倍高くなる。 2、木材は、3年に1回塗装をしないといけない。(経費が嵩む) 3、工期が長く成る。 2、 昨年(27年)「第1回 ふじまつり」を5月10日(日)盛大の開催をし約250名の来園があり盛り上がりを見る事が出来ました。 3、 今年も5月8日(日)に「第2回 ふじまつり」開催する事にしています。

⑤実施効果	(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) 先日(3月27日(日))地区の皆様約30名グライダー友の会約25名の方と神乃倉山公園内の「清掃活動」を行いました。 その中で、皆様から「工事が終り良くなったね」「以前より見晴らしが良く成り明るくなった」と言う反響を頂きました。 4月近隣の「小学校5校」が遠足に来ますので、これからその準備にかかります。
⑥目的の達成状況	(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) 成 果 1、 セメント(鉄筋入り)の大きな柱が無くなったので、全体の見晴らしが良く成り効果は予想以上に大きい。 失敗 1、 機械使用でふじの根を傷めたこと。(ゴムマツト等をしけば良かった) 工夫した点 1、 旧柵から「ふじ」の枝を外すのに大変時間を要した、枝も折れた。
⑦今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 問題点 1、今回は、予算が無く出来なかったが、「ふじの根」に土を入れること。 (お客が多くなると「ふじの根」を踏み傷めるため。) 実施したい追加修繕 1、ふじの広場の中心にある「ふじの傘」の支柱交換をすること。 (支柱がサビて、腐食が始まっているため。) 活動について、 1、今回、「第2回ふじまつり」を実施しますが、これからも継続的に活動を継続します。